



社会福祉法人鶴風会

# 後援会ニユース

No.11(昭和56年)

社会福祉法人鶴風会

## 後援会

東京都武蔵村山市学園4-10-1

☎0425-61-2521

事務所・東京都中野区  
本町2-15-13 ☎03-372-7650

後援会ニユース11号をお届けします。

今回は、国際障害者年日本推進協議会事務局長であられる小池文英先生に御寄稿いただきました。

### 国際障害者年によせて

心身障害児医療療育センター長

小池文英

今年は「国際障害者年」であることは、今更申すまでもなくご存知のことと思います。そしてそのテーマは「完全参加と平等」であります。

すなわち、障害者が社会生活に完全に参加し、かつ健康者と平等の権利を確保するということが目標になっております。

私はこれまで約四十年間にわたって障害児(者)の問題に拘りを持ってきましたが、すくなくとも戦後でもない頃までは、このようなテーマが、白昼堂々とまかり通るとは夢想だにしませんでした。

当時、障害児(者)は社会の落伍者としてのレッテルを貼られ、

いわば日陰者として世間体をばかり、ひっそりと生息しているのが常でした。

しかしながら、最近はどうした状況がかなり変わって来たように思われます。たとえば、脊髄損傷者は以前はいわば不具廃疾者とみなされ、家の中にとじこもって病臥の生活を送り、かつ短命に終るとされてきました。ところが最近では脊髄損傷による両下肢マヒ、及び排尿排便の障害にも拘らず、車椅子を駆使して、種々の職業に従事して立派にその職責を果たしている人が少なくありません。

車椅子障害者でありながら国会議員として活躍している人もいます。

ことは、ご存知の通りです。

こうした障害者の社会参加を可能にした背後には何といつてもリハビリテーション医学の進歩によるところが大であると考えます。

しかしながら問題は医学だけに止まりません。たとえば、車椅子の障害者が社会に出て活躍するためには建築構造(ひろくは社会環境)の問題があります。

また、障害者を職場に受け入れる企業の側にも、障害者は廃人であって職業に従事することは到底無理である、といったような誤った先入観がいまだにはびこっているように思えてなりません。

国際障害者年にあたって為すべきこと、企画すべきことは多々あり、この短い一文では意を尽せませんが、国民一般の障害者に対する差別・偏見をなくし、障害者に対する正しい理解を持って社会に受け入れる、といった土壌を育成することが最大の課題の一つであると考えます。



# 国際リハビリテーション会議に 出席して

東京小児療育病院 聴言科長 瀬谷 健 二



第十四回国際リハビリテーション会議が、一九八〇年六月二十二日から二十七日までの六日間にわたってカナダで開催されました。東京小児療育病院から、藤永院長、越谷総務部長、嘱託の筑波大学講師藤田先生、そして私が参加しました。

四年に一度開かれるこの会議は、カナダのウイニペグという、人口六〇万余のマニトバ州で行われました。ウイニペグはカナダの中央部に位置していて、冬期には零下四〇度にもなるそうですが、六月頃は緑の美しい余裕のある街並が展開し、東京の雑踏に慣れた目には豊かな大自然に囲まれたおおらかさを感じられます。

一日目は開会式に続いて分科会がもたれ、二日目以降閉会式に至るまで実に多くの分科会が組まれ、その数は三十に達する程度でした。

六日間の会議を統一していたテーマは「統合」と「予防」であり、様々な領域から様々な報告や提案がなされました。

ちなみに分科会に於けるテーマを領域別にみてみますと、統合に関しては、教育・社会・職業・健康などに関するものであり、一方予防については、障害の予防ということで、危険因子を持った子供（いわゆるリスク・ベビー）や家族の問題、環境問題、障害発生予防の教育面やサービスの方法、障害の早期発見の方法や治療などでした。

フィリップスの発表のあと、藤田先生が発言されて東京小児療育病院の十五年間の早期発見・早期療育の内容を発表され、参加者に感銘を与えました。

このような内容をもつた会議に参加しての感想などをいくつか述べてみたいと思います。

日本では、統合という考え方が障害児に拘わるものにとっては当然のようになっていますが、それまで私にとらえていた統合と

いう中身は、障害児と健常児との統合教育という教育面での意味合いが非常に強かったのですが、もっと広いレベルで考えられているのだということを知られました。

つまり、あらゆるレベルでの統合ということを考えなければならぬということですね。障害のある者となし者との統合は勿論で、これは誰にでもすぐ考えの及ぶところだと思えます。そればかりではなく、社会と一人一人の人間における統合、大人と子供の間の統合、そして、南と北との統合という話を聞くにおよんで、統合という言葉葉のもつ意味がはかり知れない程大きく、国を越えた命題でさえあることを知りました。

今、世界には五億人の障害者がいるといわれています。十人の中一人が障害者だということです。

ワルトハイム国連事務総長のメッセージが教えてくれたことですが、彼のいう障害者の範疇は、一般的に考えられるより広いものなのです。

通常の生活をおくれない、リハビリテーションの必要性を有する個人のすべてが障害者ということのようです。例えば、難民や飢餓にあえいでいる人々なども入っています。このように「障害者」を考えてみますと、日頃の職場の

中のみでの思考からはとても考えの及ばないところですね。

職場での障害児の日々の問題をどう考え、どう対処していくかは勿論、大切なことですが、一人の人間としての生活や、生きるというレベルで考える巨視的なところも、常に頭の片方に意識的においておかなければならないのだと再認識させられました。

今では、障害者を施設に収容することは隔離することであり、それは障害者の人権を無視するものだという考えが先進諸国の主流になつてきていますが、その為には開かれた社会を作らなければなりません。つまり、統合の為の社会建設が必要だということです。

障害者の人権を守る為に法政面から手を加え、住宅政策、雇用の促進、レクリエーションやスポーツへの参加など具体的なプログラムが作られ、実施に移されているという報告もありました。

一方では、十年間でポリオの撲滅をという訴えや、軽度の身障児の療育がようやくその緒にいた状況が開発途上国から報告されるのをきいていますと、日本での状況と比較してしまいます。一体日本は障害者の問題では先進国なのか、途上国なのかと。

考え方の違いということがある  
のでしようが、幼少脳性マヒ児の  
療育に於て、ある意味では、東京  
小児療育病院での取り組みは先駆  
的でさえあると考えてもよいよう  
に、個々の治療や教育、予防など  
は決して先進国のそれと比較して  
劣ってはいないと思われます。

しかし、障害を持って生まれた  
一人の子供が、成長して教育を受  
け、社会へ出て生活するというよ  
うに人生の流れで考えますと、決  
してスムーズであるとはいえない  
ようです。例えば、学令前は療育  
を受けてその間はいいのだが、学  
令になって学校の問題で悩まなけ  
ればならない。仮に養護学校に入  
学すると、普通の学校への転校は  
非常に困難である。とも角、義務  
教育で学校にいる間はいいが、就  
職や上級学校へ進むなどという  
時には、又悩まなければならぬ。  
というように、次のステップに  
上ろうとする時には必ず、当事  
者は勿論、家族や関係者は不安や  
憤りにさいなまれることになる  
というのが現状のようです。

つまり、法体系にしてもつぎは  
ぎだらけで、人権に根ざしてはい  
ないということですし、行政にし  
ても然りです。

国際障害者年に入っても、お祭

りのな色彩の施策しか打ち出せな  
いのは、どう考えても先進国とは  
いえないようです。

会議の中でとても感銘を受けた  
報告がありました。彼自身、障害  
者です。彼の発言は、障害者の正  
しい認識を呼びかけていました。

統合のステップとして、障害者  
をスポイルすることで失うことの  
大きさを認識すること、その為には  
将来のないもの、権利のないも  
のの典型としての障害者のとらえ  
方から脱して、経済的なことや社  
会資源よりも、さらに重要な障害  
者の人権を認識することが何にも  
まして優先的であればならない  
ということでした。

今、障害児は親に操作され、危  
険に遭遇することで人生を学んで  
いくという大切なことさえ取り上  
げられてしまっている現状では、  
障害者自身が人権の意識を持つこ  
とさえできないでいる。

統合の過程で避けられないこと  
は、両者の認識の変革であるとい  
う報告でした。

閉会式には、八十年憲章が採択  
されました。

#### 1、最大限の障害の防止

2、リハビリテーションによる

障害の要素の軽減

3、障害者が地域社会に充分参

加できることをアピールす  
ること

#### 4、国民としての権利の認識

この四項目がその趣旨です。又  
障害大臣が、それに代わるべきも  
のを各国に作ることも提案されま  
した。この憲章は各国首脳に送ら  
れ、すでに日本にも届いているは  
ずです。日本ではこの憲章がどの  
ように生かされるものか見守りた  
いと思います。

バグパイプで演奏されるシャ  
ロム(別れの歌)のメロデーと  
もに会議の全日程は幕をおろしま  
した。

多くのことを学び、多くのこと  
に思いをめぐらした六日間でした。  
収穫は沢山ありましたが、それ  
をどう血とし肉とするかという大  
きな課題が今後に残されておりま  
す。

リハビリテーションの技術をみ  
がくことも必要ですが、それを生  
かす為にも、福祉の思想というよ  
うなことも主要課題として考えて  
いきたいと思っております。



### ▼お知らせ▲

☆昨秋の第五回チャリティバザールの収益報告

バザー売上げ 四、二二四、五九八円

寄附金 二、六五九、三六〇円

計 六、八八三、九五八円

協賛会社 一八七社

個人寄贈者 三二六名

寄附金者 九七件

以上、会員皆様の温かい御支援と一八七社もの会社  
が多くの品物を御協賛くださり、収益をあげるこ  
とが出来ました。厚く御礼を申し上げます。

☆本年も秋にバザールを開催の予定しております。誠に  
恐縮でございますが、石鹼・雑貨・陶漆器・衣料品  
・玩具・食料品・ウイスキーなど御寄贈いただけま  
すよう御願ひ申し上げます。

☆役員 東京小児療育病院院長 藤永 数江

社会福祉法人鶴風会理事長 本明登志子

後援役員

会長 近藤 龍一

副会長 森 寿恵・五島瑳智子

渉外 日野千ヨコ・鈴木文子・白井潔子

石川きみ子・二宮文乃・安藤明子

小野 和郎

会計 白石 彰・倉島摂子

ニューズ 小川 昭子・阿曾滋子

監事 中里 玉子

事務局 長谷川千余子

後援会寄付者御芳名

バザー寄附者をふくむ  
五〇二名(五五〇頁)

阿曾滋子・青木幹恵・浅利重子  
天野まき子・青木よし子・安西美代  
相沢ミツエ・安倍マサ・荒川あや  
阿久津絹江・天野悦男・阿部重正  
青木知恵・朝倉富美子・秋山貞子  
足立重子・石川さみ子・井口洋一  
井上照子・井上瑞穂・井上幸子  
池野ヨシ・今野信子・井上トキ  
磯村 光・板倉玉子・入江チヨ子  
今井 言・五十嵐いづ子・伊藤徳子  
池田愛子・石田文枝・稲葉 眞理  
池田 聖・石原 純・伊村欣祐  
伊藤友二・井上裕子・一宮勝也  
家原小文治・石川キク・市川ハナ子  
井上種子・出井 道・飯塚 英子  
伊東美智江・伊藤篤子・石橋敏子  
石原嘉一郎・乾りよ子・岩崎由紀子  
飯田和成・今村谷子・稲村富美子  
白井潔子・上高嘉納子・白井重三  
浦田とめ子・牛込莊一郎・梅宮次郎  
梅原公江・上田富士子・上田 茂  
内田博之・梅田寛子・白井信郎  
内出洋道・内出和子・内田隆治  
梅澤重一・梅澤美和子・梅村美和子  
江田フジ・海老原淑子・遠藤紀子  
遠藤トヨ・小川再治・小川昭子  
小川文子・大嶋 功・及川 貞  
大岡良子・岡田孝子・大下久代  
小原正樹・太田文江・小樽夏加

緒方 月・岡崎君代・大脇照枝  
小俣文栄・小川 清・大本太一  
大本美弥子・大熊 進・大熊はつみ  
長田安代・大木秀子・大槻 正路  
織川秀夫・長田絢子・大曲治世  
沖津くら・大関 忍・小田切弘人  
岡村シマ子・小澤一男・大島誠行  
大友節子・大森 堯・小川和栄  
沖田正人・沖永洋子・沖野佳子  
奥平進之・大森禎子・柿沼英子  
閑院純仁・笠原 克・笠井 和  
加藤太郎・川合朝子・河原 節  
勝見富美・川島フミ子・釜范登志子  
柏木美香子・風岡とき・亀谷 了  
河村やゑ・金子忠子・野 博文  
川路春男・神田敬子・川野アヤ子  
川南サチ・加嶋伊勢子・鎌田直子  
神前恒子・嘉悦敬子・金森勝士  
上木艶子・川田宜子・唐澤重徳  
金親正敏・菊地久子・北川フサ  
岸田千代子・木村甲子郎岸 直枝  
岸本茂次郎・北村菊嬢・倉島拱子  
栗田行雄・工藤訓正・栗田浩子  
葛野シツ・栗田菊枝・久木元久枝  
国方澄子・栗原隆平・黒田 昌  
楠 后代・久保田奈美代・来島圭子  
黒柳 艶・幸田文一・幸田トミ  
幸田トモ子・小林信子・小林敏博  
小山伊松・小林昭子・後藤重弥  
児玉筆子・小林義郎・小松伸弥  
駒林とめ子・小櫃温江・後藤助蔵  
小林京子・小林秀子・小関敏子  
呉 政子・小池 脩・小松栄一  
小池トシ・後藤すみ子・小味淵稲  
越島新三郎・越島美治代・後藤広子

小林 進・小泉義博・小林 神  
佐々木明子・佐藤つや・佐藤欣治  
左京 福・桜井様子・斎藤イサヲ  
佐藤艶子・斎藤英子・佐々木綾  
佐々木富美子・佐藤照子・佐古政穂  
佐藤タミエ・佐藤美枝子・指田和明  
佐々木庄八・坂井由美子・佐倉 博  
斎藤永津子・坂梨ミチ・境 敏秀  
佐藤ツヤ子・佐竹敬一・坂井タマノ  
佐久間はな・斎藤達子・澤田克己  
佐藤幸子・柴田富美・島津幾之進  
篠塚清志・正田一寿子・東海林幸子  
白浜光子・柴田とら・下田喜久代  
下村節義・志村光久・新谷芳子  
下島 勝・柴田仁太郎・清水工経  
椎名 明・椎名房代・白井達男  
下山婦己子・須藤さみ子・鈴木繁雄  
杉本寛子・菅 貞子・末吉実子  
鈴木信宏・鈴村てる子・鈴木君子  
鈴木かつえ・須田経宇・菅 邦夫  
鈴木美佐江・鈴木道子・鈴木 稔  
鈴木 巖・杉本とし・菅野憲一郎  
杉田佳信・寿満歌子・関口喜久子  
関 静・関根嘉子・関 若菜  
側垣恵子・宗 恒雄・高橋百合子  
田鍋庸子・高橋和子・高尾三郎  
田中政五郎・田中彰夫・高橋里美枝  
高木輝雄・高橋三代子・田中信子  
高桑明子・田郷寿正・多田正子  
田崎トシ・田島高子・竹内敏之  
高井貞子・田村奈保美・伊達愛己  
伊達陽子・高槻義夫・田中さだ  
高田格郎・高月正宏・高橋弥生  
辰木寿美・竹内神奈・田島たつ  
高橋 絢・田中実重子・多比良勉

玉盛やす子・竹内富美子・千島子エ子  
千秋キヨ子・樋谷清雄・土屋満枝  
塚本佳子・鶴岡康子・塚越京子  
月花 亮・寺本みや・戸田芳江  
外山千枝子・道下富信・徳重隆幸  
富岡瑞子・中里玉子・中館君枝  
中村富美代・長野文子・中谷孫一  
直井喜美子・中嶋ふさ・成毛典子  
中平貴子・中山久子・長井千鶴子  
永田保子・中村絢子・中島 桂子  
中村陽二・鍋島啓子・中島由紀  
二宮文乃・新実静江・西田文子  
西村たま子・新津良久・野沢良美  
野沢多都美・野沢典美・野沢和枝  
野崎成子・野村章恒・能勢勇一  
野原 彰・能谷正雄・野口道子  
長谷川千余子・馬場ヨシ・蓮沼ゆき  
蜂須賀富美子・秦 和子・橋本静子  
長谷川健二・馬場紀子・蜂谷イソ子  
林 敬・長谷山陽子・長谷川 淳  
林 久子・原 信子・林 寿匡  
林敬一郎・林 睦子・半田登喜代  
馬場健一・早川好古・林 晴男  
原 つぎ・羽根田道代・早川浩市  
番場黄菊・日野チヨコ・日根野妙子  
平沢幸子・東出篤衛・東出祥子  
樋口正俊・日上和子・平岡真理子  
菱沼愛子・平出 光・平井象三  
福田千里・福田栄子・笛木トキ  
古野寿子・藤本貞子・府川 則子  
藤岡美津子・古川 明・藤崎きよ  
藤田トミ・深野和子・藤沢唯子  
福島君子・堀友之進・本間義章  
本田哲子・本田ヒサ・堀野貞子  
松岡知恵子・松永健治・松永しげ

松下芳男・松沢義人・松野マサヨ  
俣野昭一・松岡栄子・増田富士子  
真木篤子・丸山和子・牧野忠夫  
前田エツ・牧野アツ・松藤千代子  
松井寿美子・松村あや・松浦聡照  
松本 章・黛 節子・松浦禎子  
前村實満・宮崎 房子・宮崎 明子  
三浦眞一・三戸 緑・宮本みち  
宮川千鶴子・三島 治・宮本一郎  
宮田敬一・宮沢 香・宮下裕江  
水上淳子・三橋 神酒・宮野ヒデ  
村上リヨウ・武藤京子・村松功雄  
武藤キヨ・村田達江・本明 寛  
本明 徹・本橋 猛・森田和子  
百瀬貞子・森川幸江・森田 和子  
森 克彦・森神千代・森 勉  
森 紘子・山下文子・山口登代  
山本仁也・山本双葉・山口辰雄  
山口銀子・山田純子・柳原福代  
山田三枝子・薬師寺成子・藪本瑛子  
山口富喜・矢島 正・山住美津子  
山崎義郎・山川昌一・谷口量子  
屋代英也・安富佳子・山崎婦さ子  
矢高レイ子・柳堀 弘・矢野春雄  
山田孝子・矢吹 荘・山田信興  
湯川玲子・吉田実子・横沢寿美  
吉田千恵子・横山正子・吉田喜一郎  
吉松 博・米沢マチ・吉森隆恵  
吉村陽子・横山 貞・由村ハル子  
横山とせ・楽満礼子・渡辺和子  
渡辺古都江・渡辺静子・渡辺 喬  
渡辺嘉子・和田 彰子  
大和証券株式会社・新井ロ一加工  
紙工業(株)・三共株式会社・福神株  
式会社・中央興医会